

ほっとニュース

発行：特定医療法人一成会 木村病院／企画広報室

一成会
理念

みんなの元気のパートナー



「デイサービスセンターかえで」を作りました

特定医療法人社団一成会 理事長・木村病院院長 木村 厚



暑い夏でしたが、皆様お元気ですか。

しばらく前から、この院外報を通じて、「医療の危機」を訴えてきました。このまま「医療費削減政策」を推し進めて行ったら、日本の医療は完全に崩壊してしまう。医療だけではなく、介護も同じです。そして、そのしわ寄せを一番大きく受けるのは、患者さん、介護を必要とする方、高齢の方、低所得の方、地方に住んでいる方など、弱い立場の人たちです。ようやく、その危機感が全国的に広がり、先日の参議院選挙で、国民の大きな「反対の声」になりました。

しかし、これで、「医療費削減」「介護費削減」の政策が食い止められたわけではありません。高齢化は着実に進み、「7年後には、全国で介護難民が200万人になる」という予測さえあります。そうした政策が当分続く中で、一成会は、医療や介護を必要としている地域の方々のための、新しい可能性を模索しています。

このたび、「デイサービスセンターかえで」を作り、デイサービスという事業に取り組むことに致しました。これからますます介護の必要性が高まると、現状の介護の仕組みだけでは限界が出てきて、将来は、地域全体が介護を分担する仕組みが必要になるだろうと考えます。「かえで」は、ご家族による介護、ヘルパーによる介護、施設での介護に、もう一つ、通いでご利用頂ける介護という選択肢を広げる試みです。

本号では、「かえで」のサービスや、その背景について取上げました。「かえで」には、これまでとは少し違う新しい介護のあり方があると考えています。お読み頂き、ご理解頂き、実際にご希望の方には、「かえで」をご利用頂ければ幸いです。

また、地域の方々の幅広い医療ニーズに対応するため、皮膚科・美容外科の専門外来を、新たに始めました。

地域の方々のご意見ご要望に耳を傾け、それにお応えして行くことが、地域に根ざす医療機関が存続する唯一の方法であると考えます。一成会は、今後とも、逆風に負けず、地域の皆様のための医療と介護に取組み、新たなことに挑戦を続ける所存です。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

「デイケアセンターかえで」 こんなところです



「かえで」を訪ねました

この春から活動を開始した、「デイサービスセンターかえで」をご紹介します。

「かえで」は、荒川区熊野前の都電通りから少し入った、住宅街にあります。表示がなければ、普通の住宅と変わりがありません。それもそのはず、住宅をリフォームして、デイサービスセンターにしたのです。1階に食堂・和室・キッチン・浴室・トイレ・事務室、2階に和室2部屋と休憩室・キッチン・浴室・トイレがあります。



サービスを受けられるのは、要介護の認定を受けている方で、認知症の方も含まれます。365日無休で対応しています。定員18名と、少人数制です。特に、現在、引受け先が少なくて多くの方が困っている、「泊まり」が、自己負担800円という安価な料金でできます。

午後2時で、ちょうど、スタッフ2名と利用者3名が、買い物から帰ってきたところでした。暑い夏の午後です。一休みすると、買い物に行かなかった利用者さんも食堂の大きなテーブルに集まって、「坊主めぐり」が始まりました。今、「かえで」で流行っているのが、誰でも参加できて昔懐かしい「坊主めぐり」のゲームです。スタッフを交え、誰かが坊主を引当てると笑い、誰かが姫を引当てると笑い、会話が弾むなごやかな一時です。

「新しい介護のあり方」に挑戦中

「かえで」では、それぞれのニーズに応じて、比較的自由に個別の介護サービスを受けられます。朝からきて夕食前に帰るか、夕食も食べて帰るのが一般的ですが、基本的には、好きな時間にご利用頂けます。三度の食事など、大体のスケジュールは決まっていますが、散歩、入浴、ゲーム、昼寝、生活リハビリなどは、自由に変えることができます。特別養護老人ホームのように、スケジュールに従って機械的にサービスが提供されるのではなく、グループホームのように、利用者さんが一人で個室にいるのでもありません。

住宅を改造したのにも、わけがあります。高齢の利用者さんや認知症の症状が出てきた方にとって、自分の家にいるような気分で、くつろいで安心していられることがとても大事なことです。スタッフと利用者さんは、サービスする人・される人というより、家族のように一緒に暮らしている、という感じです。スタッフも、通常の2倍の人数が働いています。和田雅美所長は、「認知症の方は、ここにくると、ここが自分の家になる。そして、私が、ここでは、奥さんになる」そうです。スタッフの松浦智明さんは、ここにくる前は特別養護老人ホームに勤めていました。「特別養護老人ホームは、ある意味で『人生の最後の場所』という雰囲気があり、利用者さんも快活とは言えなかった。また、効率性重視で利用者さんと接する時間も短かった。ここでは、スタッフと利用者さんが一緒に何かをする、ということで触れ合える時間が長いので、お互いにとっていいと思う」。

「生活リハビリ」というのは、買い物や掃除、食器洗い、配膳などの、軽い家事作業を、それぞれのできる範囲で、スタッフと一緒にやって頂くことです。これは、「できることは自分でやる」ことを求める介護の新しいあり方で、認知症予防や認知症の方のケアにもなります。スタッフの岩佐志保子さんが、「お米を研いで下さる方がいて、初め、手伝ってもらっていいのかな、と思った。でも、考えてみたら、この人は、ずっと、お米を研いできたんだ。お米を研ぎたいんだ。でも、うちではさせてもらえないんだな、と思った」と、自身の体験を話してくれました。役割を果たすことで自然に周囲から認められ、本人の生きがい、やりがいとなり、自立を促したり状態を改善したりする大きな効果が上がるそうです。

安価な「泊まり」は、デイサービスをご利用の方が、サービスの延長として受けられる形になっています。これは、デイサービスを通じて、利用者さんの状況をスタッフが把握できるからで、デイサービスなしの泊まりは、お受けしません。診断書をつける、というようなわずらわしい手続きも必要なく、空いていれば直前でも可能です。

新たな施設建設はしないで、既存の住宅を再利用し、その費用は手厚いスタッフ配置に回し、介護の本質である、利用者の方とスタッフ、利用者の方同士の触れ合いを増やす。当然、利用者さんの負担も小さくなります。こうした実質的な「かえで」の介護のあり方は、より現実的、より身近で、より自然な、新しい介護のあり方と言えるのではないのでしょうか。

認知症の方も通ってきます

半数以上が何らかの認知症の症状を持っています。その症状も、人により千差万別です。例えば、言葉が出なくなった方がいました。どうしても、コミュニケーションがうまく行かなくなるので、いららがたまり、興奮します。その声は、他の人たちも不安にします。スタッフは、その行動が何を意味するか考えながら、粘り強くコミュニケーションをとり、原因を取除く方法を考えます。その行動が何を意味するか、そこにその人が生きてきた歴史があらわれます。その人の人生を知るとは、理解の助けになります。少しずつ、探りながら対応しますが、うまく行かずに怒られることもあります。日々のスタッフ会議でも、こういうことがあった、ということ振返り、他のスタッフの意見も聞いて、こういう対応のほうがよかったのでは、という反省を繰り返しながら、対応しています。

年をとれば、誰でも認知症になる可能性があります。あなたの身近な認知症の方を、どう介護して行くのか。高齢化社会を生きる私たち一人ひとりの問題です。一人でできることには限りがあり、社会全体、地域全体で、支えて行く必要があります。

和田所長は、「認知症の方でも、コミュニケーションはできる。かえでにくる人と人をうまくつなぎ合わせて、いい時間が過ごせるようにしたい。それぞれの方が、生きてきた歴史を持っている。その尊厳を大切にしていきたい。今できることを、ここで一緒にやってみませんか、という気持ちで毎日過ごしています」と話してくれました。

「かえで」が生まれた背景は？

介護を必要とする人は着実に増えています。荒川区では、現在、65歳以上人口が41,000人、2015年には47,000人になると推定されています。高齢化に伴い認知症の人も増えます。高齢者の8～10%が認知症と考えられるので、現在荒川区に3,280～4,100人、2015年には3,760～4,700人になると推定されています。

区内の受入れ施設の定員は、介護老人保健施設(老健)、特別養護老人ホーム(特養)、グルー

プホーム合計で700人程度、デイサービスやショートステイを加えても1,660人程度にしかならないので、施設の不足は明らかです。

厚生労働省は、これまで高齢者を受入れていた全国の療養型医療施設23万床を2011年度までに廃止する一方、新しい施設を作る構想は公表していません。施設での介護から、在宅中心の介護へと政策の転換を図っています。

また、介護費削減のため、介護報酬が低く抑えられた結果、雇用状況が改善するにしがたって、介護の職場から一般の職場へ転出する人が増え、介護の職場を維持することが難しくなっています。介護保険全体の仕組みを見直すべきときに来ていると言われていています。

施設での介護は建設など多額の費用がかかる一方、1箇所に利用者を集めてサービス提供するので効率的ですが、利用者にとって快適かどうかには問題があります。在宅介護は、利用者が自宅でサービスを受けられるので便利ですが、家族の負担は少なくありません。「かえで」のような通所サービスは、その中間にあると言えます。利用者は、こうした選択肢をうまく組合せて、少しでも希望に近い介護サービスを賢く受ける努力が必要です。

一成会では、「かえで」のような施設を、さらに、荒川区内に増やして行きたいと考えています。ここでネックになるのが、適当な住宅を見つけることと、スタッフを集めることです。荒川区内で、140m²（40坪）以上の賃貸住宅をお持ちで、賃貸可能な方、また、「かえで」で働いてみたい、という方は、下記までご連絡下さい。

連絡先：

一成会地域サービス事業部長 木村ひろみ
03-3892-3139(住宅賃貸の方、勤務希望の方)

デイサービスセンターかえで所長 和田雅美
03-5692-6688(ご利用ご希望の方)



七夕を楽しむ利用者の皆さん

皮膚科・美容外科の専門外来始めました

9月から皮膚科・美容外科の専門外来を始めました。

原則第1、第3、第5土曜日の午前中が皮膚科、午後が美容外科になります。
一般的な皮膚のトラブルに始まり、美容のご相談まで、何かご心配なことがありましたら是非ご利用下さい。

皮膚科



美容外科

*** 診察は全て、予約制 になります * TEL:3892-3161**

まぶたが下がって目があけにくくなる方がいらっしゃいますが、それも保険診療の適応になる簡単な手術で良くなります。費用は保険が使えるため、6万円以下(3割負担の場合)です。

また、自費診療となり、健康保険は使えませんが、ボトックス注入、ヒアルロン酸注射、プラセンタ注射等、しみ、しわの美容の処置もいたします。

これらの処置やピアスの穴あけも、ベテランの皮膚科専門医が行いますので、今まで躊躇していた方も安心してチャレンジしてみてくださいはいかがでしょう？

また、超音波による美容液の導入、リフトアップ等、そして、レーザーを使用してシミ・しわ取りやリフトアップ、塗る麻酔を使って痛みが少ない脱毛もできるようになりました。

いままで興味はあったけれど、美容外科に行くのはちょっと抵抗があったという方でも、木村病院の外来診療の一部として気軽に利用なさってはいかがでしょう？

一成会は、急性期医療、慢性期医療、在宅医療に続けて、医療に関わる様々なことに挑戦し、地域の方々の広いニーズに応えていきます。デイサービスセンターかえで、皮膚科・美容外科の開設もその一環です。

どうぞ皆様の声を一成会にお伝え下さい。できる限りお応えしていきます。

今年も荒川健診を受けましょう

荒川区主催の健康診断が始まっています。対象は、荒川区在住の、40歳以上の、社会保険の本人以外の方です。無料です。通常12000円程度の内容の検査が受けられます。木村病院では、さらに、大腸がんやポリープを発見する便潜血検査も、当院の負担において行っています。併せて人間ドックを受けるとお得です。

9月に入ると、空いてきます。無料で検査が受けられるこの機会を逃さず、ぜひ受診されるようお勧めします。受付にお問い合わせ下さい。